

熱川温泉病院

藤井 浩文(介護福祉士)

功 績	意欲的にコスト削減に取り組み、病棟での医療消耗品の使用量低減につなげた功績。
推 薦 者	宇野 恵理(病棟師長)
推 薦 理 由	被推薦者は明るくムードメーカー的存在ですが、普段の仕事ぶりは真面目で周りのスタッフから大変頼りされている存在です。今回病棟で使用しているラバーシーツの使用方法を見直し、改善したことでコスト削減に繋げることができました。理事長の仰られる「健育会のミッション達成のために、削減できるものは削減して経費をおさえること」を実行したものとして推薦させていただきます。

内 容

入職9年目のケアワーカーの藤井リーダーの前職は半導体メーカーの技術職で、製造業従事20年のキャリアを有しております。そのため普段から徹底的なコスト意識が染みついており、消耗品の使用量削減や効率的な職場環境に目配りできる職員です。

そんな彼は、排泄委員会の委員として活動している中で、寝たきりや離床が難しい患者さんに使用する「ラバーシーツ」に着目し、その使用量を削減できないか考えました。現状を調べてみると病院全体で毎月800枚～1,000枚ほどを使用、200,000円～250,000円ほどの費用が発生しており、その使用状況も患者さんを丁寧に観察し、工夫次第でラバーシーツを使用しなくても良いケースがあることが分かりました。

藤井は早速委員会へ削減活動を提案し、今年1月から本格的に活動を始めました。自分自身の経験を踏まえて、ラバーシーツを使わない場合は患者さんの体型や普段の排泄の様子を小まめに観察し、患者さんによってオムツの当て方を変えることで漏れ出ないようにする方法を病棟スタッフに指導しました。その結果、1月～5月までの5か月間で一月あたりの使用量が400枚～600枚減少し、金額ベースでも100,000円～150,000円の削減に成功しました。

今年度当院ではTQM活動において全部署でコスト削減に取り組むことになっております。今回藤井の発案で始めたラバーシーツの使用量削減活動ですが、病院全体で目指す削減費用からすると僅かなものかもしれませぬ。しかし、「塵も積もれば山となる」のごとく、職員一人一人の地道な積み重ねが大きな成果を生むものと期待されます。コスト削減の取り組みを先取りした彼の姿勢は模範となるもので、評価したいと思います。